

早稲田大学 教育学部 化学 講評

〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	例年は大問4題の出題であったが、本年は3題の出題であった。実験問題、あるいは考察を要する問題が比較的多いのは例年からの特徴。難問は少なく標準的な問題が多い。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	セッケン・陽イオン交換樹脂	問6の設問は考察力と計算力が必要な問題で、やや難しい。しかし、それ以外は標準的な問題で取りこぼしは避けたい。	標準
	高分子化合物・希薄溶液の性質	問4のポリ乳酸は知っていないと難しい。 問6・問7の希薄溶液の性質に関する実験(記述)問題は考察力を要する。高分子化合物の分子量の測定法に関する問題を勉強しているかどうかで差が出る問題であろう。	標準
	無機化学・化学反応の量の計	マラカイトは、2年前に東大(前)で出題された化合物。題材は見知らぬ化合物であるが内容はそれほど難しくない。	標準

〔総合コメント〕

記述問題が多く、解答しにくい設問も一部あるが、7割程度は確実に取っておきたい。論述問題・実験問題に対しても演習を繰り返し、受験に備えておきたい。